

経営比較分析表（令和4年度決算）

岐阜県 池田町

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
1	-	-	-
その他発電所数	料金契約終了年月日	FIT・FIP適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和20年3月19日 宮地発電所	令和20年3月19日 宮地発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
中部電力パワーグリッド(株)大垣営業所	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H30	R01	R02	R03	R04
水力発電	187	185	263	211	251
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	-	-	-	-	-
合計	187	185	263	211	251

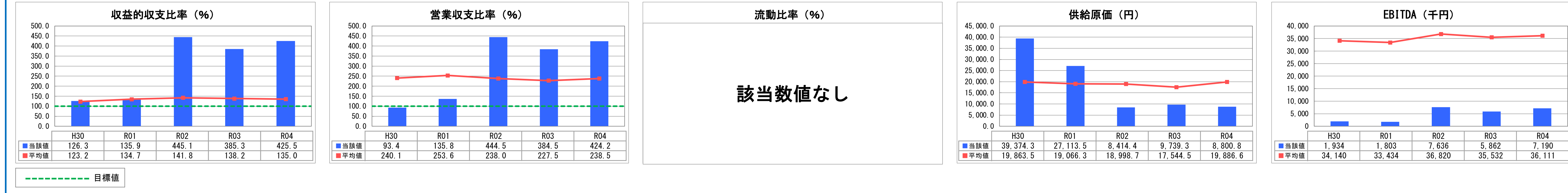
	FIT・FIP以外	FIT・FIP	合計
年間電灯電力量収入（千円）	-	8,518	8,518

剰余金の使用について（具体的な使用実績事業を記入してください）	
基金への積立の有無…有	
目的：次年度以降の機器等の修繕費及び更新費	6,480千円
一般会計への繰出しの有無…無	
その他の有無…有	
目的：他会計への繰出（土地改良施設の維持管理費）	710千円

分析欄

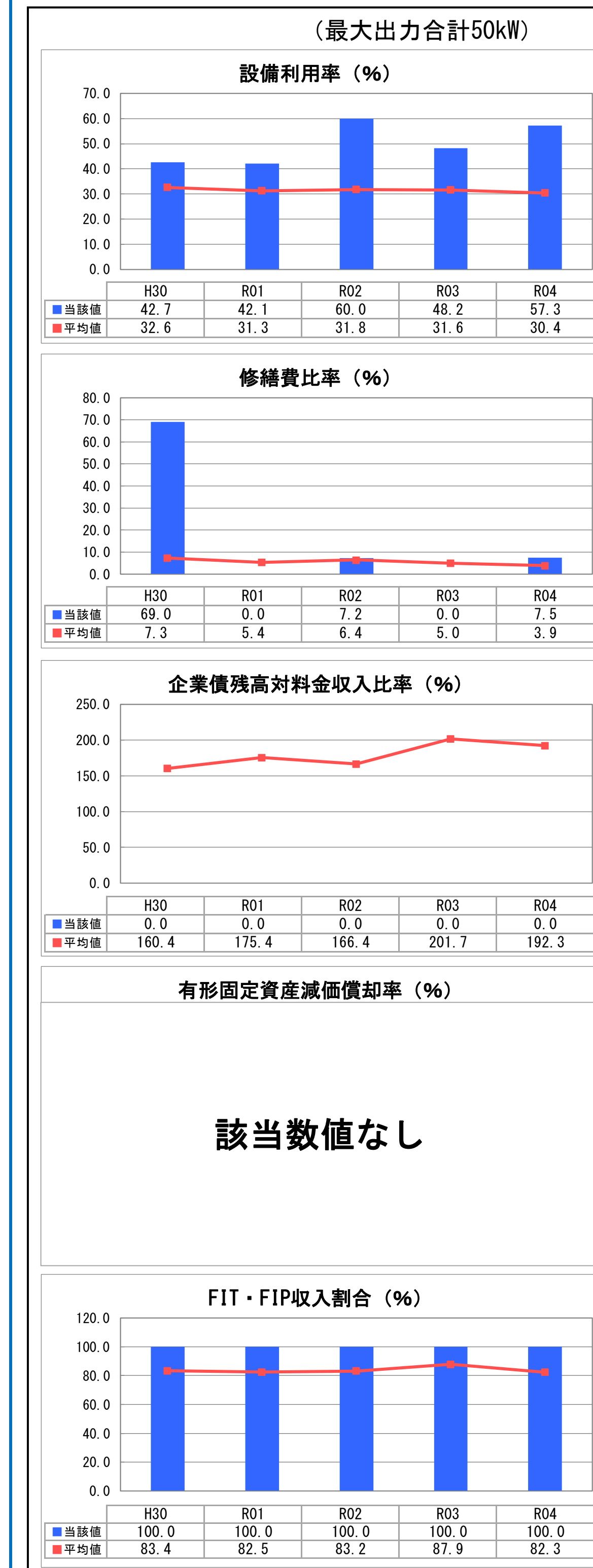
1. 経営の状況について
 収益的収支比率及び営業収支比率は、平均値と目標値を上回っている。供給原価は数年間概ね一定である。また基金積立を行うことで、設備更新等の財源の確保もできている。昨年度以前と比較すると、各指標に若干の推移が見られるが、降水量の多寡による発電電力量に伴うものである。以上より小水力発電施設を運営するに当たり健全な経営状況であるといえる。

1. 経営の状況

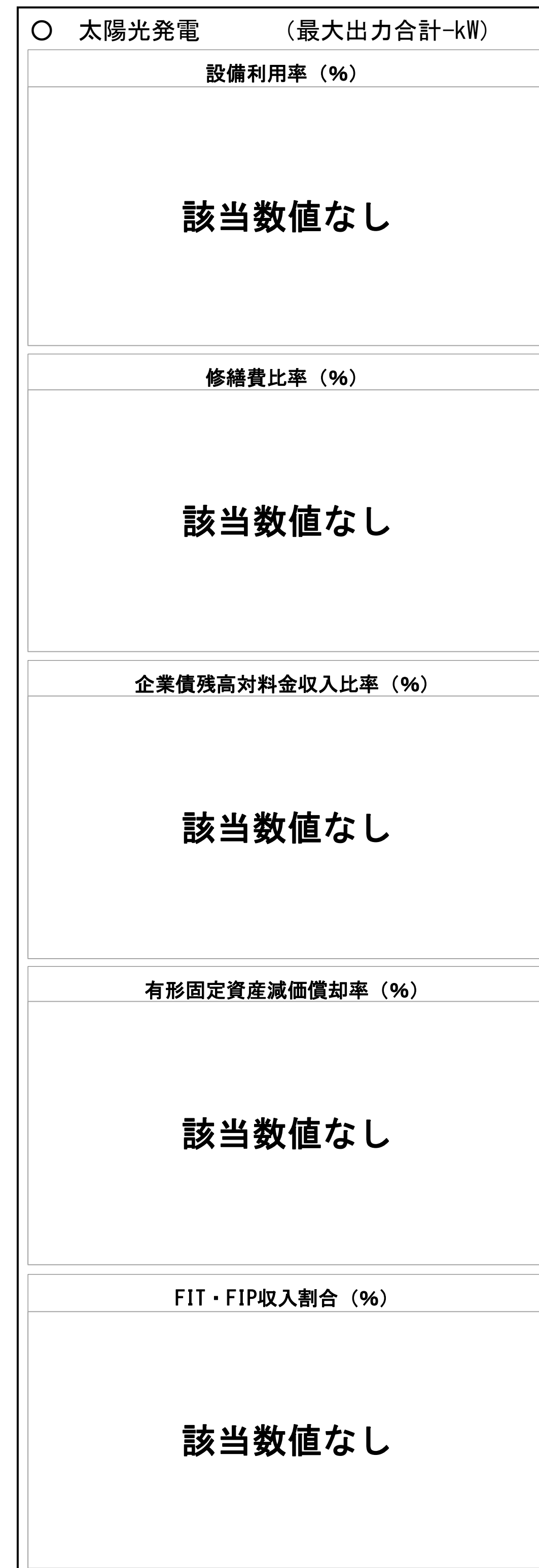
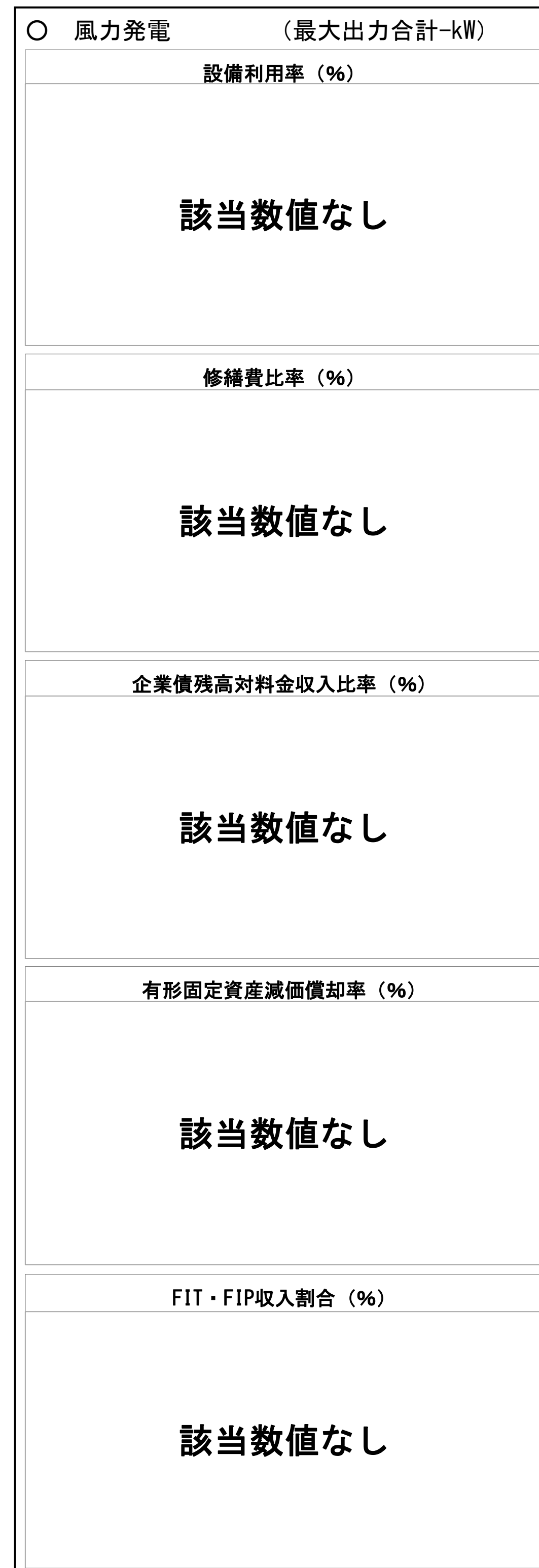
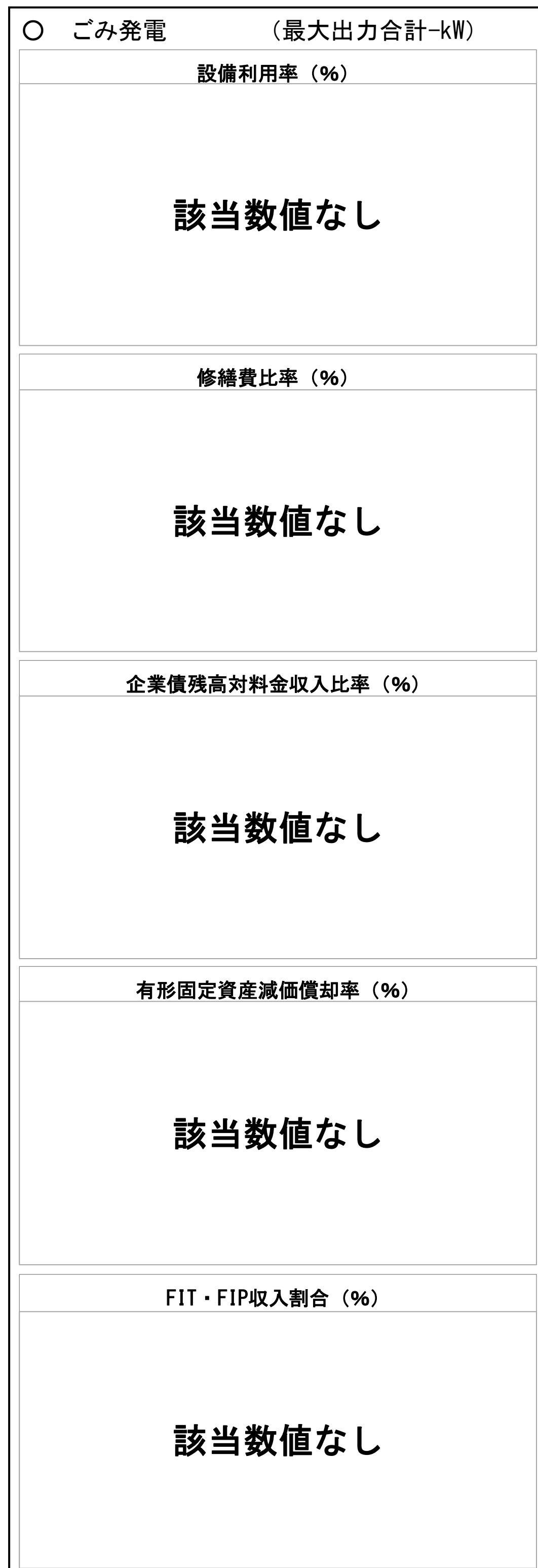
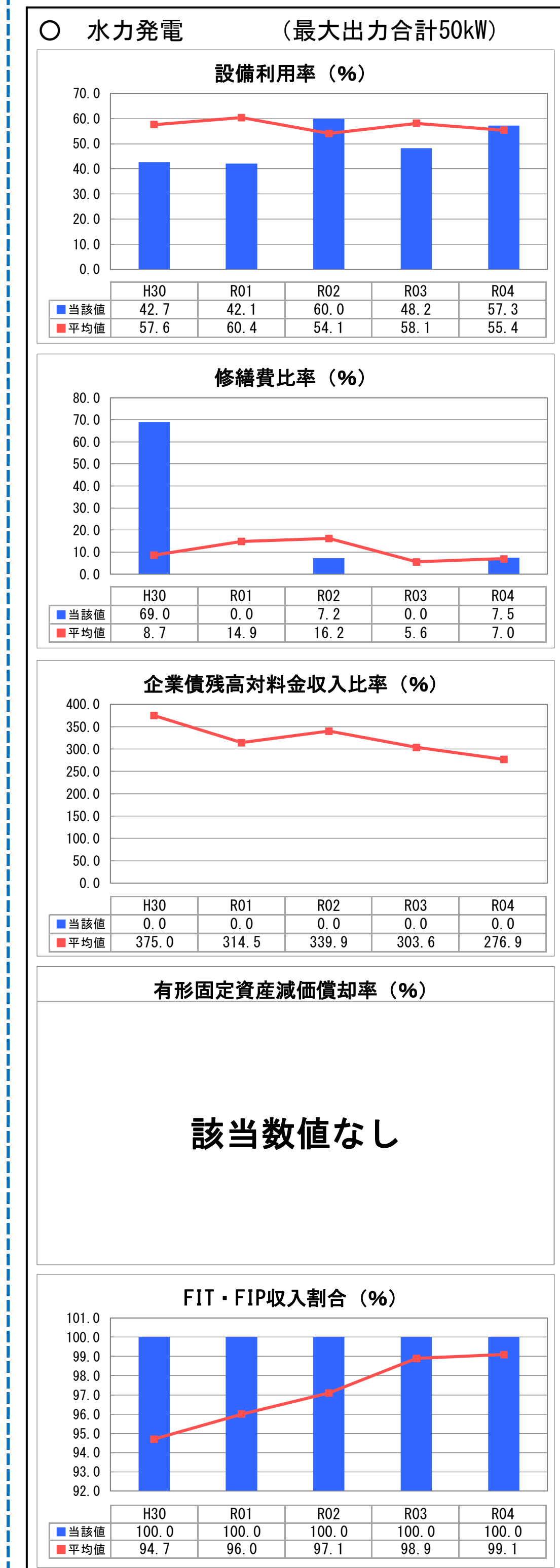


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



2. 経営のリスクについて

設備利用率は57.3%で、前年度より9.1%増えている。これは降水量や取水施設の維持管理の改善により発電量が昨年度より増加したことに起因している。平均値の55.4%を上回っているが、取水施設等の維持管理を徹底しより高い発電量を確保するために施設利用率の改善を図る必要がある。
 現在FIT収入割合は100%であるが、固定価格買取制度の契約期間終了後の買取価格の下落を考慮し設備更新等の経営方針を検討していく必要がある。

全体総括

経営状況は収益的収支率を100%以上維持し、計画的な基金積立をしており、健全性が保たれているといえる。
 今後の設備更新において各設備の耐用年数や固定価格買取制度の契約期間終了後の買取価格の下落に伴う収入の減少を考慮して更新を行う必要がある。

※ 平成30年度から令和4年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債残高対料金収入比率、FIT・FIP収入割合については、令和4年度の団体数を基に平均値を算出しています。